

鹿児島県

モデル圏域 南薩圏域, 北薩圏域, 大隅圏域

長期入院精神障害者の 地域移行推進に向けて

●●取組の概要●●

鹿児島県では、「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業」を活用し、精神障害者をピアサポーターとして養成し、一般相談支援事業所で地域移行支援スタッフとして活用しながら、1年以上の長期入院精神障害者の地域移行支援を実施しています。

1 令和元年度の達成目標と現時点での進捗状況

令和元年度の達成目標	現時点での進捗状況
1. 当事者がピアサポーターになりたいと思える研修会の開催。(目標:16人)	・7/6, 7に研修会を開催し, ピアサポーターを3人養成した。
2. 圏域内8病院がピアサポーターの体験談を聞き, 各病院の事業の理解や入院患者の退院の意欲喚起が図れる。(目標:8病院)	・体験談の練習を8月及び9月に行った。 ・体験談を実施する病院と日程調整中。 ・圏域内8病院中7病院が体験談を聞きたいと言っている。
3. ピアサポータを活用するなど地域移行を利用し, 地域移行支援体制づくりができる。(目標:9件)	・10月体験談を聞いた後, 対象者を選定する予定 ・病院, 相談支援事業所とリスト作成について協議を行った。(9/24)

3 圏域の強みと課題

【特徴(強み)】

1 相談支援事業所が複数存在 2 在院日数の長い精神科病院が複数存在 3 県精神保健福祉士が地域移行の取り組みに積極的

課題	課題解決に向けた取組方針	課題・方針に対する役割(取組)	
福祉サービスの地域移行を使ったことのある相談支援事業所がほぼない。	1 ピアサポーターの養成講座の実施 2 地域活動支援センターが、ピアサポーターを活用した地域移行サービスを利用する。 3 地域活動支援センターが、他の相談支援事業所に活用の仕方を教える。	行政	精神科病院等関係機関との調整 等
		医療	ピアサポーターの受入, 退院希望者リストの情報提供, 協議の場への参加 等
		福祉	住居や障害福祉サービスの調整, 協議の場への参加 等
		その他関係機関・住民等	精神疾患に対する理解
精神科病院の在院日数の格差がある。(地域活動支援センターのある病院は短く, ない病院は長い)	1 地域活動支援センターが、ピアサポーターを活用した地域移行サービスを母体病院以外で実施する。 2 ピアサポーターの体験談を聞き, 事業の理解や入院患者の退院の意欲喚起を行う。	行政	精神科病院等関係機関との調整 等
		医療	ピアサポーターの受け入れ
		福祉	住居や障害福祉サービスの調整, 協議の場への参加 等
		その他関係機関・住民等	

課題解決の達成度を測る指標	現状値 (今年度当初)	目標値 (令和元年度末)	見込んでいる成果・効果
①圏域内8病院がピアサポーターの体験談を聞く	2病院	8病院	各病院の事業の理解や入院患者の退院の意欲喚起が図れる。
②地域移行申請件数	1	9	地域移行支援体制づくりができる。

3 病院（医療機関）との連携状況

- ・ 養成講座の状況の報告書を病院，市，相談支援事業所へ送付した。
- ・ 市の自立支援協議会に病院のPSWが参加しており，彼らを通じ，ピアサポーターの体験談の状況など報告している。
- ・ 体験談を進めるにあたって，実務者レベルの会議を開き，実際にピアサポーターのリカバリーストーリーを聞いてもらい，ピアサポーターの人柄など理解してもらった。また，会議では，体験談の対象者，体験談発表の流れ，時間，リストの上げ方など進めていく上で細かい疑問について協議を行った。

4 現時点での課題・悩み

- ピアサポーターが少ないこと。
やる気もあり，病状も安定した方々だが，人数が少ないため，血圧や風邪など体調が悪くならないか心配である。

1 令和元年度の達成目標と現時点での進捗状況

令和元年度の達成目標	現時点での進捗状況
1. 地域移行支援申請件数が7件あり、地域移行支援の活用が促進される。	ピアサポーターの養成、活用が始まり、今後、協力病院での体験談発表等により、入院患者の退院意欲を高め、地域移行支援の活用につながっていくよう働きかけを行っていく。
2. ピアサポーターが20名養成され、北薩圏域で活動できる。	7月20, 21日に北薩圏域で初めて精神障害者ピアサポーター養成講座を実施。20名が受講を修了し、希望者に対し面接を行い、5名をピアサポーター訓練生として相談支援事業所が採用した。9月2日から、活動(リカバリーストーリーの作成等)を開始した。
3. 保健・医療・福祉関係者による協議の場が2回以上開催され、圏域内で地域の課題等について協議できる。	ピアサポーター訓練生や、協力事業所、協力病院、その他事業に興味のある一般相談支援事業所、市町、保健所、県障害福祉課、県精神保健福祉センターの担当者、密着ADによる「戦略チーム会議」を8月から毎月実施。事業進捗状況の共有、課題の検討等を行っている。

2 圏域の強みと課題

【特徴(強み)】

- 1 地域移行支援に積極的に取り組み意欲のある相談支援事業所がある
- 2 ピアサポーターによる体験談発表など、事業に協力する精神科病院がある
- 3 相談支援事業所や精神科病院に、地域移行に積極的に取り組んでいる相談員が複数いる

課題	課題解決に向けた取組方針	課題・方針に対する役割(取組)	
圏域内の精神科病院, 相談支援事業所で活動しているピアサポーターがいない	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアサポーター養成講座の実施 ・ピアサポーターによる体験談発表の実施 ・ピアサポーターを活用した長期入院精神障害者の地域移行支援の実施 	行政	ピアサポーター養成講座の実施, 精神病院等関係機関との調整, 障害福祉サービスの給付決定(市町村)等
		医療	ピアサポーターの受け入れ, 退院希望者リストの提供, 協議の場への参加等
		福祉	ピアサポーターの派遣・同行, 住まいや障害福祉サービスの調整, 協議の場への参加等
		その他関係機関・住民等	精神障害やピアサポーターへの理解
精神科病院, 相談支援事業所, 行政等の関係機関が, 地域移行へ向けた連携が十分とはいえない	<ul style="list-style-type: none"> ・保健・医療・福祉関係者による協議の場で地域の課題について協議する。(R2年度末までに圏域に設置する)) ・顔のみえる関係性の構築, 連携強化 	行政	関係機関との調整, 地域課題の整理・分析等
		医療	地域移行の個別事案の分析・検討等
		福祉	地域移行の個別事案の分析・検討等
		その他関係機関・住民等	精神障害やピアサポーターへの理解

課題解決の達成度を測る指標	現状値 (今年度当初)	目標値 (令和元年度末)	見込んでいる成果・効果
① 地域移行支援申請件数	0	7	地域移行支援の活用が促進される
② 圏域内ピアサポーター養成数	0	20	圏域内でピアサポーターが活動できる
③ 保健・医療・福祉関係者による協議の場の開催数	保健所毎に開催	2	圏域で協議の場を設け, 課題等について協議できる

3 病院（医療機関）との連携状況

- ・昨年度末～今年度初めに、管内精神科病院へ出向き、事業について説明を実施（保健所長・課長・担当）。病院長や病院職員に事業の理解と御協力をお願いした。

今年5月上旬、圏域内6病院中、4病院が協力病院として決定した。

- ・北薩圏域精神障害者ピアサポーター養成講座では、通院やデイケアに通う方々に講座について広報をしていただいた。

- ・8月から、戦略チーム会議を毎月実施しており、協力病院は毎回参加している。その中で、協力病院で実施する体験談発表についての具体的な調整や、対象者についての選定についての協議等を実施している。

今後体験談発表を実施し、地域移行支援の申請をする対象者等が出てくれば、具体的にケース検討を行っていきたい。さらに、地域の課題についても検討する機会としていく。

4 現時点での課題・悩み

- ・圏域ごとに協力病院での体験談発表を実施していくが、ピアサポーター、事業所、保健所の経験が少ない中で、プログラムの構成や運営について悩むことが多い。

体験談発表をどのような形で実施しているか具体的に知りたい。

- ・県内では本事業を実施して3年目となり、養成されたピアサポーターの数が増えたが、ピアサポーターの活動の場が少ないように感じる。他の自治体ではどのような場でピアサポーターが活用しているか知りたい。

また、ピアサポーターより他の圏域等で活動している先輩ピアサポーターと交流し、経験を聞いてみたいという声があがっている。先輩ピアサポーターとの情報交換の場が必要と感じている。他自治体ではどのような場があるか教えてほしい。

- ・圏域では、専門職（PSW、相談支援専門員等）の数に限りがあることや精神科病院や事業所に職員が定着しづらいことなどで、マンパワー不足を訴える精神科病院や事業所が多い。よって、地域移行・地域定着支援やピアサポーターの活用に対して、積極的に取り組めない事業所等が少なくない現状がある。

1 令和元年度の達成目標と現時点での進捗状況

令和元年度の達成目標	現時点での進捗状況
1. 地域移行の個別申請件数(2件)	0件
2. 保健・医療・福祉関係者による協議回数(1回)	0回 (保健・医療・福祉関係者による協議の場としての協議はしていないが、関係者での協議は実施。)
3. 地域移行推進事業の実施事業所の拡大へのアプローチ(特定相談支援事業所にピアサポーター養成講座に参加していただく。一般相談支援事業所へ本事業への協力依頼実施。)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特定相談支援事業所にピアサポーター養成講座に参加していただいた。地域移行推進事業への理解を深めていただき、一般相談支援事業所になっていただくようアプローチ。 ・ 一般相談支援事業所へ本事業の協力依頼実施。

2 圏域の取組における強みと課題

【特徴(強み)】

1. 基幹相談支援センターにおいて、既にピアサポーターを雇用し、相談支援や当事者の集まる会にピアサポーターも参加している。
2. 地域移行支援に積極的に取り組む意欲のある相談支援事業所の存在
3. ピアサポーターの受け入れなど事業に協力する精神科病院が複数存在

課題	課題解決に向けた取組方針	課題・方針に対する役割(取組)	
個別給付経験がない。	管内の自立支援協議会を通じ、取組検討のための協議の場を設置する。	行政	関係機関との調整, 地域課題の整理・分析等
		医療	ピアサポーターの受入, 退院希望者リストの情報提供, 協議の場への参加 等
		福祉	地域移行支援の計画作成, ピアサポーターの同行
		関係機関・住民等	
曾於圏域において, 46%が県外入院であり, 圏域外との連携が必要である。	管内の自立支援協議会を通じ、取組検討のための協議の場を設置する。	行政	関係機関との調整, 地域課題の整理・分析等
		医療	ピアサポーターの受入, 退院希望者リストの情報提供, 協議の場への参加 等
		福祉	地域移行支援の計画作成, ピアサポーターの同行
		関係機関・住民等	
課題解決の達成度を測る指標	現状値 (今年度当初)	目標値 (令和元年度末)	見込んでいる成果・効果
①地域移行の個別申請件数	0	2	
②保健・医療・福祉関係者による協議回数	1	1	

3 病院（医療機関）との連携状況

- ピアサポーター体験談発表が先にあった方が地域移行を推進しやすいという意見と、病院内の体制を整えてから、ピアサポーター体験談発表をしたいという意見があった。そのため、病院ごとの調整があるため、具体的な内容については時間を要している。
- ピアサポーター養成講座に精神科病院のスタッフも参加してもらい、認識がすすんでいる。

4 現時点での課題・悩み

- 大隅圏域は2医療圏があり，1医療圏に協力事業所が1ヶ所あるが，もう一方の医療圏には協力事業所はない。
- 退院後の社会資源がない。
- ピアサポーターを養成した後の自治体のサポートをどうしているか知りたい。